

児童の社会認識に関する発達的研究

——漁村におけるインタビュー調査より——

A Developmental Study on Children's Conception of Social Institutions in a Fishing Village

教育心理学教室 田丸敏高

Toshitaka Tamaru * : A developmental study on conception of social institutions in a fishing village. (Journal of the Faculty of Education, Tottori University, <Education Science>, 1987, 29-1)

I. 問題と目的

子どもは、どのような契機で社会に関心をもち疑問を抱くに至るのであろうか。

子どもは、どのようなものとして社会を把握するのであろうか。

子どもは、どのようにして社会のしくみを想像し、その本質的理解に迫るのであろうか。

子どもの社会認識のあり方は、彼の自然認識や自己認識のあり方とどのように関係しているのであろうか。

子どもが社会について思考し始めることは、彼の発達全体においてどのような意義を有するのであろうか。

以上のような子どもの社会認識に関わる問題は、児童心理学においても認知発達研究においても重要な問題であろう。にもかかわらず、心理学者はこうした問題に関わって十分研究してきたとは言い難い。社会認識に関連する心理学の用語としては、Social Cognition (社会的認知)がある(文部省, 1986)。しかし、この用語の下に扱われてきたのは、主として対人認知、感情的認知の問題であって、我々の言う社会認識の問題ではない。児童心理学の権威であるカーマイケルの児童心理学ハンドブックにおいても、Social Cognitionの章が設けられているが(Shantz, C. U., 1983), ここでも社会認識は問題にされていない。認知心理学においても事情は同様である(大島, 1986)。社会認識の問題が直接的経験的な対人関係にのみ限定されてきたのが、これまでのおおかたの心理学研究であったとも言えよう。

こうしたなか、Furth, H. G.ら(1976)は子どもの社会認識に関わる興味深い研究を行っている。彼らは、子どもに対し社会的事象——学校、お店、お金、支払い、地域、政治、仕事、役割取得——の理解に関するインタビュー調査を実施している。彼らの方法の特徴は、①子どもが日常的に出会う出来事について質問する、②子どもの思考の自発的な流れに沿って質問する、③単なる事實的

* Department of Psychology, Faculty of Education, Tottori University, Koyama-cho Tottori, 680, Japan.

知識ではなく理解に焦点を当てているところにある。こうした方法は、Piaget, Jに依拠したものである。Piagetの主な研究対象は自然認識である。社会認識を対象としたものはごくわずかであり一国の観念について (Piaget, 1951) ——, そのため Furthらの主要な関心も、自然認識に際して働く知能が社会認識においても働くかどうかに向けられている。そうした制約の下、観察される出来事を越える推論のない段階から社会的制度を貫く一般的規則の把握に至るまで4段階を示している。

さて、本研究はインタビュー法を用いて子どもの社会認識の発達を明らかにしようとするものである。その特徴の第1は、子どもにとって身近でありかつ関心の強い「お金」についての理解を軸に、子どもの社会認識の発達に接近しようとするところにある。「お金」は、日常目の前でやりとりされるものであると同時に、その理解のためには社会のしくみへの洞察が不可欠の事象である。その特徴の第2は、山陰の漁村の子どもを対象にしているところにある。本研究の対象地域は、岩場に囲まれた人口1,300人あまりの過疎化の進行している所であり、全住民の85.5パーセントは漁業に従事している(学校要覧, 1984)。こうした地域性は、産業地域とも工業地域、農業地域とも違った社会認識の発達を予想させる。その特徴の第3は、準臨床法的方法を用いているところにある。子どもの思考の流れに沿うようにするとともに、一定程度の質問項目、質問形式、質問順序を用意した。そのため、数量的分析と質的分析とが可能となる。

II. 方 法

被験児 T小学校 2年生13名、4年生24名、6年生15名

日時 1986年7月16日 午後1時から4時

場所 T小学校教室

手続き 一人当たり30分程度の個人面接を行う(面接員15名)。

インタビュー内容は、カセットテープを用いて録音した。

質問項目

1. あなたは、お店でお菓子を買ったことがありますか。お菓子を買うときにはどうしますか。どうしてお金を払うのですか。そのお金をお店屋さんはどうすると思いますか。
2. バスに乗りたいときはどうしますか。どうしてお金を払うのですか。運転手さんはそのお金をどうするのだと思いますか。
3. 太郎くんが、お店屋さんでお金を払ってお菓子を買いました。太郎くんとお店屋さんとはどちらが得をしたと思いますか。それはどうしてですか。
4. お店屋さんに行ったところ、バナナは1本30円、スイカは1個800円でした。どうしてバナナよりスイカの方が値段が高いのですか。
5. お店屋さんに行ったところ、いわしは1匹30円、はまちは1匹800円でした。どうしていわしよりはまちの方が値段が高いのですか。
6. お金で買えるものにはどんなものがありますか。お金で買えないものにはどんなものがありますか。
7. お金とは何ですか。
8. Tの人たちは、どんな仕事をしていますか。知っているものをあげてください。
9. 大人は、いろいろな仕事をして働いています。大人は、どうして働くのですか。
10. あなたは、はやく大人になって働きたいですか。それはどうしてですか。

11. 大人は、働くとお金を稼ぎます。それはどうしてですか。お医者さんと学校の先生とは、どちらが余計にお金を稼ぐと思いますか。それはどうしてですか。
12. あなたは、お金がほしいですか。どのくらいほしいですか。それはどうしてですか。お金がいっぱいあったらどうしますか。
13. あなたは、Tに生まれて良かったと思いますか。それはどうしてですか。Tの良い点はどんな点ですか。Tの悪い点はどんな点ですか。
14. 30年後、Tはどんな町になっていると思いますか。
15. あなたがもし町長さんだったら、Tをどんな町にしたいですか。
16. 小学校を卒業したら、あなたははどうしたいですか。
17. あなたはここでずっと暮らしたいですか。それはどうしてですか。

III. 結果と考察

インタビュー過程の録音を記録用紙に書き写し、それを第1次資料とした。

結果は、まず第1次資料を各質問項目ごとに整理し、学年別の傾向を数量的に示す*。これによって、児童の社会認識の発達における基本的傾向を明らかにする。

1. ①あなたは、お店でお菓子を買ったことがありますか。

「ない」と答えた者が2年生と4年生とで各1名ずつあったが、残り全員は「ある」と答えている。

②お菓子を買うときにはどうしますか。

自発的に「お金を払う」と答えた者が2年生で7名(54%)、4年生で10名(42%)、6年生で13名(87%)あった。

③どうしてお金を払うのですか。

お菓子を買ったときお金を払わなければいけない理由を考えさせ、その結果を分類して表1に示した。2年生では「わからない」と答える者が5名(45%)と多いが、全体的には「義務・きまり」を答える者が2年生で3名(27%)、4年生で7名(29%)、6年生で6名(40%)と比較的多く示された。これは、お金の支払いが道徳的に意識されやすいということを意味しているのではないだろうか。

④そのお金をお店さんはどうすると思いますか。

支払われたお金の流通について質問したところ、回答結果は表2のように示された。2年生では「わ

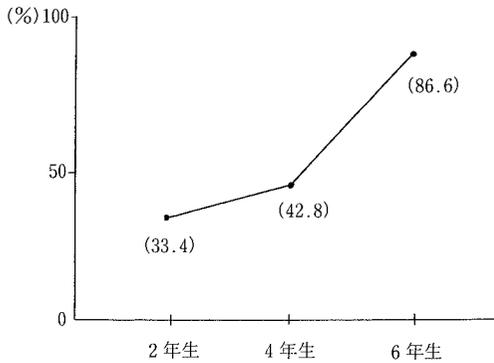
表1. お金を支払う理由 人数(%)

カテゴリー	学 年	2 年生	4 年生	6 年生
交 換		1 (9.1)	1 (4.2)	0
品 物		1 (9.1)	4 (16.7)	1 (6.7)
利 益		1 (9.1)	0	1 (6.7)
義 務・き ま り		3 (27.3)	7 (29.2)	6 (40.0)
仕 入 れ		0	2 (8.3)	1 (6.7)
そ の 他		0	3 (12.5)	0
わ か ら な い		5 (45.4)	4 (16.7)	2 (13.3)
無 言		0	3 (12.5)	4 (26.7)

<カテゴリー>

- 交換：交換，又は取りかえっこという言葉を含むもの。
- 商品：「値段があるから」「買うものだから」など商品だからというもの。
- 利益：お店屋さんが商売をしているということに関し、利益を追求するもの。
- 義務・きまり：この言葉が含まれている他に「どうぼうになる」など。
- 仕入れ：「お店屋さんも仕入れてきたから」など、品物が別の場所から買われてきたことに注目しているもの。

図1 材料費、又は生活費と答えた割合



からない」と「おつり」とがそれぞれ4名(33%)であったが、4年生、6年生では「材料費」「生活費」に言及する者の割合が増加している(図1)。このことは、お金の機能についての認識の発達を示しているのではないだろうか。

2. ①バスに乗りたいときはどうしますか。

自発的に「お金を払う」と答えた者は、2年生で3名(27%)、4年生で12名(63%)、6年生で7名(50%)であった。

②どうしてお金を払うのですか。

全体を通じて「乗ったから」という答をした者が2年生で5名(39%)、4年生で8名(36%)、6年生で5名(38%)と比較的によく示された。これには、同語反復的回答と同時に、「お礼」を示唆したものも含まれている。(表3)

③運転手さんはそのお金をどうするのだと思いますか。

バス代がどのように使われるかたずねたところ、表4のような結果に整理された。2年生では「わからない」が5名(42%)と多いが、4年生、6年生では「給料にする」(会社を経てそのお金が給料として支払われると考える)が、それぞれ7名(30%)、7名(47%)と比較的によく示された。バ

表2. お菓子代はどうか 人数(%)

カテゴリー	学年	2年生	4年生	6年生
おつり		4 (33.3)	0	0
ためておく		0	3 (14.3)	1 (16.7)
材料費		2 (16.7)	4 (19.0)	6 (40.0)
生活費		2 (16.7)	5 (23.8)	7 (46.6)
その他		0	1 (4.8)	0
わからない		4 (33.3)	5 (23.8)	0
無言		0	3 (14.3)	1 (6.7)

<カテゴリー>

- おつり：「しまっておいておつりにする」など「おつり」という言葉が含まれているもの。
- ためておく：ただ単に「ためておく」「しまっておく」などそれ以上お金の動きのみられないもの。
- 材料費：仕入れのお金など材料費として使われるもの。
- 生活費：お店さんが店のお金を利益として自分や家族のために使う場合。生活のための貯金を含む。

表3. お金を払う理由 人数(%)

カテゴリー	学年	2年生	4年生	6年生
義務		0	4 (18.2)	0
乗ったから		5 (38.5)	8 (36.4)	5 (38.4)
利益		2 (15.4)	3 (13.6)	2 (15.4)
必要経費		1 (7.7)	0	2 (15.4)
わからない		4 (30.7)	3 (13.6)	2 (15.4)
無言		1 (7.7)	4 (18.2)	2 (15.4)

<カテゴリー>

- 義務：「おこられる」「払わないといけないから」など。
- 乗ったから：「乗ったから」「乗せてもらったお礼」など。
- 利益：「お金をもうけているから」など利益を追求するもの。
- 必要経費：「ガソリン代がかかる」など。

※ 子どもへの応接の必要上ある質問が省かれたこともあり、質問項目ごとの回答総数は必ずしも一定しない。

表4. バス代はどうなるか 人数(%)

カテゴリー	学 年	2年生	4年生	6年生
個人的に何か買う		2 (16.7)	1 (4.3)	0
持 っ て お く		2 (16.7)	3 (13.1)	0
会 社 に わ た す		2 (16.7)	1 (4.3)	3 (20.0)
必 要 経 費		0	1 (4.3)	0
給 料 に す る		0	7 (30.4)	7 (46.7)
わ か ら な い		5 (41.6)	6 (26.1)	4 (26.7)
無 言		1 (8.3)	4 (17.4)	1 (6.6)

ス代についても、お金の機能についての認識の始まりは4年生以降と言えよう。

3. ①太郎くんが、お店屋さんでお金を払ってお菓子を買いました。太郎くんとお店屋さんとはどちらが得をしたと思いますか。

回答結果を表5に示す。2年生では「お店屋さん」と答える者が7名(54%)、ついで「両方」と答える者が4名(31%)であるが、4年生、6年生ではほとんどが「お店屋さん」と答えている。その人数と割合は4年生で18名(75%)、6年生で11名(73%)となっている。

②それはどうしてか。

①で「お店屋さん」と答えた者について、その理由をたずねたところ、表6のような結果となった。「お金がもらえる」と「お菓子よりお金が価値ある」とはいづれもお金の絶対的価値優位性を認めるものである。両者合わせると2年生で6名(86%)、4年生で11名(69%)、6年生で7名(74%)とどの学年でも高率である。子どもにとっては、ともかく「お金の価値は高い」のであろう。なお、「利益」を値段に加えていることを意識している者が4年生に1人、6年生に2人見られた。

4. お店屋さんに行ったところ、バナナは1本30円、スイカは1個800円でした。どうしてバナナよりスイカの方が値段が高いのですか。

回答結果を表7に示す。子どもが最も多く言及

表5. どちらが得 人数(%)

カテゴリー	学 年	2年生	4年生	6年生
両 方		4 (30.8)	1 (4.2)	1 (6.7)
お 店 屋 さ ん		7 (53.8)	18 (75.0)	11 (73.3)
太 郎 く ん		1 (7.7)	3 (12.5)	2 (13.3)
そ の 他		0	1 (4.2)	0
わ か ら な い		1 (7.7)	0	0
無 言		0	1 (4.2)	1 (6.7)

表6. お店さんが得である理由 人数(%)

カテゴリー	学 年	2年生	4年生	6年生
お 金 が も ら え る		5 (71.4)	8 (50.0)	5 (45.5)
お 菓 子 よ り お 金 が 価 値 有 る		1 (14.3)	3 (18.8)	2 (18.2)
利 益		0	1 (6.3)	2 (18.2)
わ か ら な い		1 (14.3)	1 (6.3)	1 (9.1)
無 言		0	3 (18.8)	1 (9.1)

表7. スイカの方がバナナより高い理由 人数(%)

カテゴリー	学 年	2年生	4年生	6年生
大 き い		7 (53.8)	10 (41.7)	3 (20.0)
お い し い		0	3 (12.5)	0
中 身 が 多 い		2 (15.4)	2 (8.3)	1 (6.7)
時 期 が 有 る		0	1 (4.2)	0
大 き い + お い し い		1 (7.7)	2 (8.3)	3 (20.0)
大 き い + 中 身 が 多 い		0	4 (16.7)	3 (20.0)
大 き い + 栄 養 が 有 る		1 (7.7)	0	0
大 き い + お い し い + 中 身 が 多 い		1 (7.7)	0	0
大 き い + お い し い + 時 期 が 有 る		0	0	2 (13.3)
そ の 他		0	1 (4.2)	2 (13.3)
わ か ら な い		1 (7.7)	0	0
無 言		0	1 (4.2)	1 (6.7)

するのは「スイカの方が大きい」ということである。単独で「大きい」を理由とした者は2年生で7名(54%)、4年生で10名(42%)、6年生で3名(20%)であるが、複数の理由の1つに「大きい」をあげた者まで含めると、2年生で10名(77%)、4年生で16名(67%)、6年生で11名(73%)と多数を示す。このことから、子どもが値段について考えるときものみかけにいかにか影響されやすいかがわかる。なお、みかけでないものとして「スイカには時期がある」ことを指摘するものが4年生で1名、6年生で2名示された。また、複数の理由をあげる者が2年生で3名(23%)、4年生で6名(25%)、6年生で8名(53%)と学年をおって増加し、6年生で過半数示された。1つの理由ではもっともらしくないとき複数の理由をあげることが高学年の推論活動の特徴なのであろうか。

5. お店屋さんに行ったところ、いわしは1匹30円、はまちは1匹800円でした。どうしていわしよりはまちの方が値段が高いのですか。

子どもの回答を分類して表8に示す。ここでも「大きい」を理由とする者が2年生で6名(46%)、4年生で6名(25%)、6年生で7名(47%)、(ただし、内5名は複数の理由の1つに「大きい」をあげた者)と多く示された。しかし、みかけの理由ではなく「とれ高」に言及した者が4年生で3名(13%)、6年生で5名(33%)示された。これはスイカとバナナとの比較の際には見られなかったものであり、漁村の児童の経験ないし伝聞の影響を示していると考えられる。なお、理由を複数あげた者は6年生だけであり、その数は5名(33%)であった。

6. ①お金で買えるものにはどんなものがありますか。

子どもの回答を分類して表9に示す。思いつくままに複数あげさせたので食料品が相対的に多数示された。

次に、子どもの答え方に注目し、キャラメル、麦チョコなどの商品名で答えているか、食べ物、服、家具などの類概念で答えているが分類した。

表8. はまちの方がいわしより高い理由 人数(%)

カテゴリー	学 年	2年生	4年生	6年生
大 き い		6 (46.2)	6 (25.0)	2 (13.3)
お い し い		2 (15.4)	6 (25.0)	3 (20.0)
と れ 高		0	3 (12.5)	3 (20.0)
大 き い + と れ 高		0	0	2 (13.3)
大 き い + お い し い		0	0	3 (20.0)
そ の 他		0	0	2 (13.3)
わ か ら な い		4 (30.8)	8 (33.3)	0
無 言		1 (7.7)	1 (4.2)	0

表9. お金で買えるもの

	2年生	4年生	6年生	計
食 料 品	45	52	20	116
高価・高級品	7	7	13	27
学 用 品	8	19	10	37
おもちゃ スポーツ用品	11	11	8	30
電 化 製 品	3	11	5	19
衣 料 品	3	20	13	36
家具・装飾品	14	21	12	47
生 活 用 品	0	3	1	4
ガス・電気 など	0	3	1	4
そ の 他	7	4	5	16
い っ ぱ い	0	1	0	1
計	97	152	88	337

表10. 買えるものの答え方 人数(%)

カテゴリー	学 年	2年生	4年生	6年生
商品名・具体的		8 (61.5)	6 (25.0)	0
類概念・抽象的		4 (30.8)	8 (33.3)	7 (46.7)
混 合		1 (7.7)	7 (29.2)	8 (53.3)
そ の 他		0	2 (8.3)	0
無 言		0	1 (4.2)	0

表10はその結果であるが、2年生では商品名で答える者が8名(62%)であったが、4年生ではそれが6名(25%)、6年生では0名に減少している。反対に、類概念で答える者は混合型も含めて2年生で5名(38%)、4年生で15名(63%)、6年で15名(100%)と増加傾向を示している。これは、学童期における具体的思考から抽象的思考への発達を示唆している。

②お金で買えないものにはどんなものがありますか。

子どもの答を分類して表11に示す。学年が上がるとつれて「人間・体」や「命」の回答数が増加してくるのが特徴的である。

また、2年生、4年生では買えるものであっても「買えないもの」として答えた者が、それぞれ2名、4名見られた。(たとえば、高価なものをあげて「買えないもの」としている。)

7. お金とは何ですか。

お金の定義を求めたところ、「何かを買うときに使うもの」というような用途的定義が多く示された。その人数は2年生で7名(58%)、4年生で13名(57%)、6年生で9名(56%)であった。また、形や材質を答えた者が2年生で1名、4年生で2名あった。「交換するもの」と答えたのが4年生、6年生各1名、「大切なもの」とするものが4年生で3名、6年生で4名あった。なお、「わからない」が2年生で4名、4年生で1名あった。

8. Tの人たちは、どんな仕事をしていますか。知っているものをあげてください。

子どもの答えた仕事を分類して表12に示す。その特徴は、第1に漁村らしく漁師、組合、市場など漁業関係の仕事が数多くあげられること、第2に職種が非常に限られていて高学年になってもあまり変化がないことであろう。

9. 大人は、いろいろな仕事をして働いています。大人は、どうして働くのですか。

大人が働く理由として子どもが答えたものを分類して表13に示した。家族のためや子どものためなど「生活のため」とする者が2年生で6名(46%)、4年生で15名(63%)、6年生で4名(27%)

表11. お金で買えないもの 回答数

学年 カテゴリー	2年生	4年生	6年生	計
人間・体	2	6	14	22
命	0	4	6	10
自然 a	22	26	11	59
自然 b	0	9	2	11
公共物	5	6	0	11
人のもの 自分のもの	1	4	2	7
その他	1	6	1	8
計	31	61	36	128

<カテゴリー>

自然 a : 海, 山, 川, 草, 木, 空, 雲など
自然 b : 太陽, 地球, 星, 宇宙など

表12. 知っている仕事 回答数

	2年生	4年生	6年生	計
漁業関係	11	32	18	61
会社員 公務員	11	18	14	43
商店	17	9	15	41
農業・大工 ・工事	9	6	1	16
内職	3	4	2	9
その他	0	1	0	1
計	51	70	50	171

表13. 大人が働く理由 人数(%)

学年 カテゴリー	2年生	4年生	6年生
生活のため	6 (46.2)	15 (62.5)	4 (26.7)
お金のため	3 (23.1)	4 (16.7)	10 (66.7)
その他	0	1 (4.2)	1 (6.7)
わからない	4 (30.8)	2 (8.3)	0
無言	0	2 (8.3)	0

表14. はやく働きたいか 人数(%)

学年 カテゴリー	2年生	4年生	6年生
はい (%)	7 (58.3)	9 (37.5)	9 (60.0)
いいえ (%)	3 (25.0)	15 (62.5)	6 (40.0)
わからない (%)	2 (6.7)	0	0

であった。また、お金が欲しいからなど「お金のため」とする者が2年生で3名(23%)、4年生で4名(17%)、6年生で10名(67%)であった。働くことの意義は「生活」や「お金」と直結して考えられやすい傾向にあると言えよう。

10. ①あなたは、はやく大人になって働きたいですか。

子どもの回答を分類した結果、表14のように示された。全体としては「はい」が25名、「いいえ」が24名とはほぼ同数であった。

②それはどうしてですか。

①で「はい」と答えた者では、「お金」や「生活」を理由にあげた者が4年生で3名、6年生で4名あった。また、「楽しそうだから」など仕事への興味を理由にあげた者は、2年生で1名、4年生で2名、6年生で2名であった。

①で「いいえ」と答えた者では、「たいがい」など苦労を理由にした者が2年生で2名、4年生で8名、6年生で5名であった。

大方の子どもにとって、働くことは「お金」や「生活」のためであり「苦労」なことであると受けとめられている。

11. ①大人は、働くとお金を稼ぎます。それはどうしてですか。

この問題は労働と賃金との関連についてのものであり、子どもには難しい。「わからない」ないし「無言」は、2年生で5名(38%)、4年生で7名(30%)、6年生で4名(27%)であった。また、「働くから」ないし「お金がもらえるから」など同語反復的答が2年生で7名(54%)、4年生で11名(48%)、6年生で7名(47%)となっている。

②お医者さんと学校の先生とは、どちらが余計にお金を稼ぐと思いますか。

子どもの回答を分類して表16に示す。2年生では9名(82%)、4年生では17名(71%)というように大半が「医者」と答えている。これに対し、6年生では「医者」が7名、「先生」が6名とほぼ同数となっている。

③それはどうしてですか。

②で「医者」とした者、「先生」とした者の理由

表15. 労賃 人数(%)

学年 カテゴリー	2年生	4年生	6年生
働くから	7 (53.8)	9 (39.1)	7 (46.7)
お金がもらえるから	0	2 (8.7)	0
生活のため	1 (7.7)	3 (13.0)	2 (13.3)
わからない	4 (30.8)	4 (17.4)	2 (13.3)
無言	1 (7.7)	5 (21.7)	4 (26.7)

表16. 医者と先生 人数(%)

学年 カテゴリー	2年生	4年生	6年生
医者	9 (81.8)	17 (70.8)	7 (46.7)
先生	2 (18.2)	6 (25.0)	6 (40.0)
同じ	0	0	1 (6.7)
わからない	0	1 (6.7)	0
無言	0	1 (4.2)	0

表17. 医者が多い理由 人数

学年 カテゴリー	2年生	4年生	6年生	計
患者数	3	4	1	8
治療	5	9	3	17
職のねうち	0	1	2	3
わからない	1	3	1	5

<カテゴリー>

患者数：人が多い・人がよく来るなど。
治療：病気の人を治す・患者からお金をもらうなど。
職のねうち：人の命をあずかる・人の命を救うなど。

表18. 先生が多い理由 人数

学年 カテゴリー	2年生	4年生	6年生	計
集金	1	1	0	2
生徒数	0	2	2	4
教える	0	0	3	3
その他	0	0	1	1
わからない	1	3	0	4

<カテゴリー>

集金：集金代をもらうなど。
生徒数：生徒数が多いということの意味している解答。
教える：いろいろな事を教えるなど。

づけをそれぞれ表17, 表18に示す。「医者」の理由としては、大勢の患者が薬代などの料金を払っている場面を思い浮かべてものが多くあがっている。

「先生」の場合も大勢の生徒から集金している場面を思い浮かべてと思われる答が見られる。職業の価値に関連させた答は、高学年で若干見られる。

12. ①あなたは、お金がほしいですか。「ほしい」と答えた者は2年生で10名(77%), 4年生で15名(63%), 6年生で13名(87%)であった。「ほしくない」と答えた者は2年生で2名(15%), 4年生で7名(29%), 6年生で2名(13%)であるから、大半の者が「ほしい」と表明したことになる。

②どのくらいほしいですか。

①で「ほしい」と答えた子どもに対し、その金額を具体的に言わせたところ、表19のような結果となった。2年生では1名を除いて2,000円以下なのに、4年生では散らばりを見せ、6年生では全員3,000円以上を答えている。「ほしい」金額は学年とともに増大する。

③それはどうしてですか。

この質問に対し、「何かを買いたい」とした者が2年生で9名、4年生で12名、6年生で8名あった。彼らには、何を買いたいのかたずねたところ、表20のような結果にまとめられた。2年生では「お菓子」など食べ物をあげる者が7名と多く見られるが、4年生、6年生では「おもちゃ」や「ファミコン」など実際に価格の高いものをあげる者が多くなる。②のお金に対する欲求の増大の背景には、こうした商品に対する欲求の増大が存在するのであろう。

④お金がいっぱいあったらどうしますか。

頻度の多い答を示すと、2年生では「何か買うもの」をあげた者で8名(67%)であり、4年生、6年生では「貯金」でそれぞれ10名(45%), 7名(47%)であった。「もの」から「お金」への欲求の転化が示唆される。

13. ①Tに生まれて良かったと思いますか。

意見の分布を表21に示す。

各学年ともほとんどが良かったと答えている。

表19. 子どものほしい金額 人数

	2年生	4年生	6年生	計
50 円	2	0	0	2
100 円	2	2	0	4
1,000 円	1	3	0	4
2,000 円	2	0	0	2
3,000 円	0	0	1	1
5,000 円	0	1	1	2
1 万 円	1	2	1	4
2 万 円	0	0	1	1
3 万 円	0	0	2	2
5 万 円	0	0	1	1
10 万 円	0	4	3	7
100 万 円	1	1	2	4
1,000 万 円	0	1	0	1
あるだけ・いっぱい	1	0	1	2

表20. 買いたいもの 人数

	2年生	4年生	6年生	計
食 べ 物	7	1	0	8
おも ち ゃ	1	4	2	7
高 価 な も の	0	2	2	4
衣 服 類	0	2	0	2
そ の 他	1	3	1	5

表21. Tに生まれて良かったか 人数

カテゴリー	学 年			人数			
	2年生	4年生	6年生				
は	い	11	21	12			
い	い	え	0	2	2		
わ	か	ら	な	い	2	1	1

表22. Tに生まれて良かった理由 人数

カテゴリー	学 年			人数
	2年生	4年生	6年生	
友だちがたくさんいる	4	3	2	
魚がたくさん食べられる	3	4	3	
水泳(野球)が強い	1	3	1	
海があって泳げる	0	3	1	
遊び場がある	1	2	0	
事故(事件)が少ない	0	2	0	
空気がきれい	1	0	3	
いい人が多い	0	1	2	
景色がきれい	0	1	2	
転校して来たり仲間はずれにされるから	1	0	0	
人が少ないので広々できる	0	1	0	
静かだから	0	0	1	
アメリカ等に比べて危険が少ない	1	0	0	

②それはどうしてですか。

①で「はい」と答えた者についてその理由をたずねたところ、表22のような結果となった。人間関係や自然環境に関して具体的な理由が各学年ともあげられている。また、「いいえ」と答えた者も「男ばかりでけんかをする」(4年)、「学校でいやなことがある」(4年)、「魚を無理矢理食べさせられる」(6年)など具体的・個別的な理由を述べている。

③Tの良い点はどんな点ですか。Tの悪い点はどんな点ですか。

子どもの答をそれぞれ学年別に整理して表23、表24に示す。

双方とも具体的・個別的な事柄が指摘されているのが特徴的である。地域に対する全体的認識は高学年においてもほとんど示されていない。

14. 30年後、Tはどんな町になっていると思いますか。

子どもの答を表現に即して整理し表25に示す。これを肯定的変化と否定的変化とに区別して整理しなおすと表26のようになる。

各学年で比較的頻度の高い答は、2年生で「わ

表23. Tの良い点 人数

カテゴリー	2年生	4年生	6年生
遊び場がある	2	1	0
景色がいい	1	4	3
水泳(野球)が強い	1	3	0
自然にめぐまれている	1	2	0
魚がたくさんとれる	0	2	3
いい人が多い	0	2	3
みんなが一所懸命働いている	1	0	3
海で泳いだり船に乗ったりできる	1	0	4
事故が少ない	0	0	3
学校や友人の家が近い	1	0	1
先生の注意を守る	1	1	0
みんな仲がよい	1	1	0
ゲームがあつておもしろい	1	0	0
方言がある	1	0	0
にぎやかな	0	1	0
学校の行事がおもしろい	0	1	0

表24. Tの悪い点 人数

カテゴリー	2年生	4年生	6年生
危険な場所が多い	1	2	1
狭い	1	2	4
浜辺にゴミが捨ててある	0	0	3
けんかをする人がある	1	0	2
言葉が汚い	0	0	2
店が少ない	0	0	4
交通の便が悪い	0	0	4
遊ぶ所が少ない	1	0	1
気持ち悪い所がある	1	0	0
ファミコンのカセットを貸借できない	1	0	0
自分勝手な友人がいる	1	0	0
家や組合が少ない	0	1	0
いたずらっ子がいる	0	1	0
海が荒れたりして危険	0	1	0
先生の話をかかない	0	1	0
酒に酔う人がある	0	1	0
車が多い	0	1	0
大人がふざけてへんなことをいう	0	0	1
若い人が遊びにくる	0	0	1

表25. Tの30年後 人数

カテゴリー	2年生	4年生	6年生
平和になる	1	0	0
変化する	1	0	0
きれいな町	2	4	2
学校が変わる	1	0	0
にぎやかな町	0	2	0
いい町	0	4	0
明るい町	0	2	0
船が多く花が多い	0	1	0
家多く山が少ない	0	2	0
山をくずしてきれい	0	0	3
交通が便利	0	0	2
いろいろなものがある	0	0	1
古くなる	1	0	0
木が枯れる	1	1	0
人口が減る	0	1	1
港・道が広く人が減る	0	0	1
船が多く海が汚い	0	0	1
変化なし	0	0	2
わからない	6	5	0
沈黙	0	2	1

表26. Tの変化 人数(%)

カテゴリー	学 年	2 年生	4 年生	6 年生
肯 定 的		3 (23.1)	15 (62.5)	8 (57.1)
否 定 的		2 (15.4)	2 (8.3)	3 (21.4)
どちらとも言えない		2 (15.4)	0	2 (14.3)
わからない, 沈黙		6 (46.2)	7 (29.2)	1 (7.1)

からない, 沈黙」で6名(46%), 4年生で「肯定的」で15名(63%), 6年生で「肯定的」で8名(57%)であった。

15. あなたがもし町長さんだったら, Tをどんな町にしたいですか。

子どもの答をタイプ分けし表27にまとめる。「きれいな町」とは「緑を増やしゴミをなくす」などを含んでいて, 道徳的なニュアンスが強い。「楽しい町」や「住みやすい・安全な町」も「みんなの町にする」や「事故をなくす」などという表現であり, やはり道徳的なニュアンスが強い。こうした答の割合が高いのだが, これに対し「広く大きい町」や「ビルのある町(都会化)」は, 「工事をして山をくずす」などの方法により町を変える試みについて表現したものである。これも高学年で比率の高い答である。海と山に囲まれた, 狭いひっそりとした町に対して, 青年や成人が望んでいることが一部小学生にも反映していることが予想される。

16. 小学校を卒業したら, あなたはどうしたいですか。

希望する最終学校をたずねたところ, 表28のような結果となった。4年生, 6年生では「高校まで」と考えている者がそれぞれ15名(65%), 9名(60%)と多かった。

次に就きたい職業についてたずねたところ, 全体で「漁師」が7名であったが, その他は「大工」, 「服屋」, 「会社」, 「デパート」, 「ウエイター」, 「理髪店」, 「美容師」, 「先生」, 「保母」, 「花屋」, 「ガソリンスタンド」などが1~2名ずつあった。いずれも身近な職業であり範囲も限られたものと

表27. Tをどんな町にしたいか 人数

カテゴリー	学 年	2 年生	4 年生	6 年生
きれいな町		3	3	7
楽しい町		2	3	0
住みやすい・安全な町		0	7	1
広く大きい町		0	3	3
ビルのある町(都会化)		2	1	3
今のまま		1	0	0
その他		4	0	0
わからない・沈黙		1	3	1

表28. 希望する最終学歴 人数(%)

カテゴリー	学 年	2 年生	4 年生	6 年生
1. 大 学		5 (41.7)	3 (13.0)	2 (13.3)
2. 高 校		0	15 (65.2)	9 (60.0)
3. 中 学 校		1 (8.3)	2 (8.7)	0
4. 中学卒業後未決定		5 (41.7)	1 (4.3)	2 (13.3)
5. 高校卒業後未決定		1 (8.3)	1 (4.3)	2 (13.3)
6. わからない		0	1 (4.3)	0

表29. ここでずっと暮らしたいか 人数(%)

カテゴリー	学 年	2 年生	4 年生	6 年生
は い		10 (76.9)	19 (79.2)	7 (46.7)
い い え		2 (15.4)	4 (16.7)	5 (33.3)
どちらもいい		0	0	3 (20.0)
わからない		1 (7.7)	1 (4.2)	0

表30. ここでずっと暮らしたい理由 人数

カテゴリー	学 年	2 年生	4 年生	6 年生
ここで生まれたから		2	1	1
おもしろい		2	1	0
ここに慣れているから		1	5	1
友人が多い		1	3	0
他に行きたくない		0	3	0
両親がいるから		0	1	3
自然にめぐまれている		1	1	0
いい人ばかりだから		0	1	0
景色がきれい		0	1	0
魚がすぐとれる		0	0	1

なっている。

17. あなたはここでずっと暮らしたいですか。

意見分布を表29に示す。

「はい」と答えた者は、2年生で10名(77%)、4年生で19名(79%)と4分の3以上の割合を示したが、6年生では7名(47%)と半数以下であった。

次に「はい」と答えた者について、その理由をたずねたところ表30のような結果にまとめられた。

「いいえ」と答えた者は2年生で2名(15%)、4年生で4名(17%)、6年生で5名(33%)示された。その理由をたずねたところ、表31のようにまとめられた。年齢とともに他の世界への興味の増大がうかがえる。

表31. 他で暮らしたい理由

人数

カテゴリー	学 年	2年生	4年生	6年生
他の所において 楽しみたい		1	0	1
ここは便利が悪いから		0	2	1
広いところで暮らしたい		0	1	2
他の世界のこ とを知りたい		0	0	1
他の所の景色がみたい		1	0	0

まとめ

- (1) 「お金」の客観的機能について認識することは、子どもでは困難を伴う。物を買ったときやバスに乗ったときの支払いの必要は、きまりや義務、お礼として意識されやすい。お菓子代が材料費や生活費として使われたり、バス代が給料や必要経費として使われたりすることは、4年生頃から意識され始めるようである。
- (2) 子どもにとって、お金は絶対的に価値あるものである。「お店屋さん和太郎くんと比較」で、ほとんどがお金を得たお店屋さんを和としてしている。しかし、一方の得は他方の損ではない。等価交換の概念は、まだ子どもの手には届かない。
- (3) 物の価格を考えると、子どもはそのもののみかけにとられる。スイカは大きいから高いのである。みかけを越えて本質を考えると子どもには困難だが、代わりに子どもは複数の理由付けを行う。物が高いのは、大きいしおいしいから高いのである。漁村の児童の場合、スイカとバナナとの比較より、いわしとまちとの比較の方が容易である。価格の本質へ迫るものとして、とれ高に言及しみかけを乗り越えようとする者が見られる。しかし、それは魚の価格に限られたことであつて、価格一般の問題はとらえられていない。
- (4) 大人の労働は小学校2年生の社会科の教科書で既に扱われているものであるが、子どもの理解は教科書の理解とはかなり異なっている。人が働くのは、お金のためであり生活のためであると考えられている。
- (5) お金に対する欲求は、年齢とともに飛躍的に増大する。商品に対する欲求の増大とともに、お金それ自身に対する欲求も芽生えてくる。
- (6) 本小学校の児童の場合、自分の住む所の良き悪きを具体的・個別的に認識している。未来を都会化と期待する者も若干あるが、多くは「きれい」「楽しい」というようなあいまいな期待なしに認識にとどまっている。
- (7) 自分の将来については、高卒後身近な職業をあげて答える者が多い。6年生では大きくなった

らここを離れたいと考える者が増えている。

文 献

Furth, H. G., Baur, M. and Smith, J. E., 1976, Children's conception of social consitions : a Piagetian framwork, Human Development, 19, 351-374.

文部省 学術用語集「心理学編」 日本学術振興会 1986 356ページ

大島尚 (編) 認知科学 新曜社 1986 44-47ページ

Piaget, J., 1951 大浜幾久子 (要訳) 子どもにとって「自分の国」とは「外国」とは 駒澤大学教育学研究論集 第4号 1985 175-185ページ

Shantz, C. U., 1983, Social cognition, Mussen, P. H. (ed.) Handbook of Child Psychology vol III, 495-555.

T小学校 学校要覧 1984 47ページ

(昭和62年4月15日受理)

